



IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

Applicant : Hiroyuki Tamura
Serial No. : 10/782,602
Filed : February 19, 2004
Title : CAPACITOR DEVICE

Art Unit : Unknown
Examiner : Unknown

Commissioner for Patents
P.O. Box 1450
Alexandria, VA 22313-1450

TRANSMITTAL OF PRIORITY DOCUMENT UNDER 35 USC §119

Applicant hereby confirms his claim of priority under 35 USC §119 from the Japanese
Application No. 2003-043320 filed February 20, 2003.

A certified copy of the application from which priority is claimed is submitted herewith.

Please apply any charges or credits to Deposit Account No. 06-1050.

Respectfully submitted,

Date: 3/30/04

Samuel Borodach
Reg. No. 38,388

Fish & Richardson P.C.
45 Rockefeller Plaza, Suite 2800
New York, New York 10111
Telephone: (212) 765-5070
Facsimile: (212) 258-2291

30184079.doc

CERTIFICATE OF MAILING BY FIRST CLASS MAIL

I hereby certify under 37 CFR §1.8(a) that this correspondence is being deposited with the United States Postal Service as first class mail with sufficient postage on the date indicated below and is addressed to the Commissioner for Patents, P.O. Box 1450, Alexandria, VA 22313-1450.

March 30, 2004

Date of Deposit

Signature

Gina Maldonado

Typed or Printed Name of Person Signing Certificate

14225-040001

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日 2 0 0 3 年 2 月 2 0 日
Date of Application:

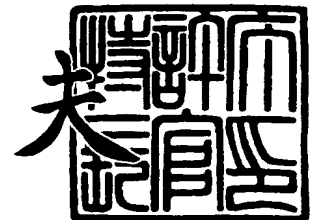
出 願 番 号 特 願 2 0 0 3 - 0 4 3 3 2 0
Application Number:
[ST. 10/C] : [J P 2 0 0 3 - 0 4 3 3 2 0]

出 願 人 三 洋 電 機 株 式 有 限 公 司
Applicant(s):

2 0 0 4 年 2 月 1 8 日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今 井 康 夫



出証番号 出証特 2 0 0 4 - 3 0 1 0 3 4 0

【書類名】 特許願

【整理番号】 KDA1030005

【提出日】 平成15年 2月20日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 H01G 2/06

【発明者】

 【住所又は居所】 大阪府守口市京阪本通2丁目5番5号 三洋電機株式会社
社内

 【氏名】 田村 浩之

【特許出願人】

 【識別番号】 000001889

 【氏名又は名称】 三洋電機株式会社

 【代表者】 桑野 幸徳

【代理人】

 【識別番号】 100091605

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 岡田 敬

 【連絡先】 電話 0 2 7 6 - 3 3 - 7 6 5 1

【選任した代理人】

 【識別番号】 100107906

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 須藤 克彦

【手数料の表示】

 【予納台帳番号】 093080

 【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

 【物件名】 明細書 1

 【物件名】 図面 1

 【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 0001614

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書
【発明の名称】 コンデンサ装置
【特許請求の範囲】

【請求項 1】 分離溝により電氣的に分離された複数の導電パターン電極と、前記一の導電パターン電極に固着された陽極リード及び他の導電パターン電極に固着された陰極リードを備えるコンデンサ素子と、前記コンデンサ素子及び導電パターン電極の下面を除いて被覆し、且つ導電パターン電極とコンデンサ素子とを一体に支持する絶縁性樹脂とよりなることを特徴とするコンデンサ装置。

【請求項 2】 前記陽極リードは L 字状の金具の上部に接続し、該金具の下部裏面を導電パターン電極に接着し、陽極リードを導電パターン電極に固着したことを特徴とする請求項 1 記載のコンデンサ装置。

【請求項 3】 前記金具の上面に凹部を設け、凹部にコンデンサの陽極リードを嵌合し、位置決めしたことを特徴とする請求項 2 記載のコンデンサ装置。

【請求項 4】 前記陽極リードは折り曲げて一の導電パターン電極に固着され、陰極リードは直接他の導電パターン電極に固着されたことを特徴とする請求項 1 記載のコンデンサ装置。

【請求項 5】 前記陽極リードは取出し位置をずらし直接一の導電パターン電極に固着され、陰極リードは直接他の導電パターン電極に固着されたことを特徴とする請求項 1 記載のコンデンサ装置。

【請求項 6】 前記導電パターンに凹部を設け、凹部にコンデンサの陽極リードを嵌合し、位置決めしたことを特徴とする請求項 5 記載のコンデンサ装置。

【請求項 7】 前記陽極リードはメッキで平坦部を形成し、該平坦部が導電パターン電極に固着され、陰極リードは直接他の導電パターン電極に固着されたことを特徴とする請求項 1 記載のコンデンサ装置。

【請求項 8】 分離溝により電氣的に分離された複数の導電パターン電極と、前記一の導電パターン電極に固着された陽極リード及び他の導電パターン電極に固着された陰極リードを備えるコンデンサ素子と、前記と異なる導電パターン電極のパッドに取付けられた回路素子のベアチップと、前記コンデンサ素子とベアチップ及び導電パターン電極の下面を除いて被覆し、且つ導電パターン電極と

コンデンサ素子及びベアチップとを一体に支持する絶縁性樹脂とよりなることを特徴とするコンデンサ装置。

【請求項 9】 前記コンデンサ素子は金属粉末のタンタルを陽極リードと共に加圧、成型後、タンタル酸化皮膜を形成し誘電体としたことを特徴とする請求項 1 記載又は請求項 6 記載のコンデンサ装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は電話機等の携帯機器等に使用されるタンタルチップタイプのコンデンサ装置に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

タンタルチップタイプのコンデンサ装置は例えば電話機、ノートパソコン等の携帯機器の電源回路のように大きい容量を必要とする部分に使用されており、今後ますます小型化、薄型化及び軽量化が要求されている。

【0003】

図 8 はタンタルチップタイプのコンデンサ装置に用いられるコンデンサ素子の断面図である。

【0004】

図 8 に示すように、コンデンサ素子 1 は金属粉末のタンタル (Ta) 2 を陽極端子となるタンタル棒 3 とともに加圧、成型後、真空中で焼き固める。そしてその表面に電気化学的陽極酸化により、タンタル酸化被膜 (Ta_2O_5) 4 を形成し、これを誘電体とする。

【0005】

その上に電解質として、硝酸マンガンの熱分解により固体の二酸化マンガン層 (MnO_2) 5 を形成する。この二酸化マンガン層 5 の上に電氣的な接続を行うために、グラファイト層 6 を設ける。グラファイト層 6 に銀塗料 7 と導電性の接着剤を利用して陰極リード 8 を形成する。

【0 0 0 6】

図 9 は前記コンデンサ素子 1 を用いた従来のタンタルチップタイプのコンデンサ装置の模型図である。前述のようにして形成されたコンデンサ素子 1 のタンタル棒 3 にコの字状に折り曲げた陽極端子 9 を溶接点 1 0 で溶接する。また導電性接着剤で形成された陰極リード 8 に複雑に折り曲げた陰極端子 1 1 を圧着する。さらにコンデンサ素子 1 及び陽極端子 9 と陰極端子 1 1 とを一部外部に露出させてエポキシ樹脂 1 2 にてモールドしチップタンタルコンデンサを形成している。

【0 0 0 7】**【特許文献 1】**

特開平 1 - 9 1 4 1 4 号公報

【0 0 0 8】**【発明が解決しようとする課題】**

前述したように、従来のタンタルチップタイプのコンデンサ装置は陽極端子及び陰極端子は共に折り曲げた複雑な電極端子を用いていたので、工数がかかり、且つコストが掛かった。また折り曲げた複雑な電極端子を用いていたので、チップコンデンサで必要とする小型化、軽量化及び薄型化を達成することができなかった。

【0 0 0 9】**【課題を解決するための手段】**

本発明のコンデンサ装置は小型化、薄型化及び軽量化を図ったチップタイプのコンデンサ装置を提供するもので、

本発明は分離溝により電氣的に分離された複数の導電パターン電極と、前記一の導電パターン電極に固着された陽極リード及び他の導電パターン電極に固着された陰極リードを備えるコンデンサ素子と、前記コンデンサ素子及び導電パターン電極下面を除いて被覆し、且つ導電パターン電極とコンデンサ素子とを一体に支持する絶縁性樹脂とよりなるコンデンサ装置を提供する。

【0 0 1 0】

本発明は前記陽極リードが L 字状の金具の上部に接続され、該金具の下部裏面を導電パターン電極に接着し、陽極リードを金具を介して導電パターン電極に固

着したコンデンサ装置を提供する。

【0 0 1 1】

本発明は前記陽極リードを折り曲げて一の導電パターン電極に固着し、陰極リードを直接他の導電パターン電極に固着したコンデンサ装置を提供する。

【0 0 1 2】

本発明は前記陽極リードの取出し位置をずらし直接一の導電パターン電極に固着し、陰極リードを直接他の導電パターン電極に固着したコンデンサ装置を提供する。

【0 0 1 3】

本発明は前記陽極リードにメッキを施し平坦部を形成し、該平坦部を導電パターン電極に固着し、陰極リードを直接他の導電パターン電極に固着したコンデンサ装置を提供する。

【0 0 1 4】

本発明は分離溝により電氣的に分離された複数の導電パターン電極と、前記一の導電パターン電極に固着された陽極リード及び他の導電パターン電極に固着された陰極リードを備えるコンデンサ素子と、前記と異なる導電パターン電極のパッドに取付けられた回路素子のベアチップと、前記コンデンサ素子とベアチップ及び導電パターン電極の下面を除いて被覆し、且つ導電パターン電極とコンデンサ素子及びベアチップとを一体に支持する絶縁性樹脂とよりなるコンデンサ装置を提供する。

【0 0 1 5】

【発明の実施の形態】

本発明のコンデンサ装置を図 1 から図 7 に従って説明する。

【0 0 1 6】

図 1 は本発明のコンデンサ装置で、図 1 (A) は側面図、図 1 (B) は平面図、図 1 (C) は断面図である。コンデンサ素子 1 5 は前述したように金属粉末のタンタル T a と共にタンタル棒を加圧、成型後、真空中で焼き固めた陽極リード 1 6 を有する。またコンデンサ素子 1 5 はタンタル酸化膜よりなる誘電体に形成した二酸化マンガン層の上にグラファイト層と導電性の接着剤を利用して陰極リー

ド 17 を設けている。

【0017】

コンデンサ素子 15 の陽極リード 16 および陰極リード 17 は後述される特殊な混成集積回路技術で構成され、分離溝 19 で分離された導電パターン電極 18、22 に取付けられる。コンデンサ素子 15 の陽極リード 16 はそのままでは離れていて一の導電パターン電極 18 に固定できない。そこで L 字状に折り曲げた金具 20 を用い、その金具 20 の上部に設けた凹部 20A に陽極リード 16 のメッキを施した先端を嵌着し位置決めをする。次ぎに金具 20 の下部裏面を導電パターン電極 18 に半田 21 で半田付けし固定し、陽極リード 16 を導電パターン電極 18 に固定する。

【0018】

金具 20 の下部裏面を導電パターン電極 18 に半田付けする代りに Ag ペーストあるいは導電性の接着剤で固定してもよい。コンデンサ素子 15 の陰極リード 17 はそのまま前記と異なる導電パターン電極 22 にハンダ 23 で半田付けし固定するが、前述と同様に、半田付けする代りに Ag ペーストあるいは導電性の接着剤で固定してもよい。

【0019】

コンデンサ素子 15、陽極リード 16、陰極リード 17 を始めとして金具 20 及び導電パターン電極 18、22 の下面を除いて絶縁性樹脂 24 で被覆し、一体的に支持し、チップタイプのコンデンサ装置を形成する。従って導電パターン電極 18、22 の下面は露出されているので、そのままプリント基板のプリント配線に取付けることができる。

【0020】

図 2 及び図 3 は図 1 のコンデンサ装置を特殊な混成集積回路技術を用いて組立てる過程を説明する側面図である。まず図 2 (A) の如く、導電箔 30 を用意する。材料としては、Cu を主材料した導電箔が用いられるが、これに限らず Al を主材料とした導電箔または Fe-Ni 等の合金からなる導電箔が用いられる。

【0021】

次に図 2 (B) のごとく、導電箔 30 の導電パターン電極 18、22 を構成す

る導電パターン 31、32 となる領域を除いて導電箔 30 が露出するようにホトレジスト 33、34 をパターンニングする。そして図 2 (C) のごとく導電箔 30 を選択的にエッチングし、分離溝 19 で分離された複数の導電パターン 31、32 を形成する。この状態では導電パターン 31、32 のパターン電極 18、22 となる部分は分離溝 19 で分離されているが、下部は繋がっている。

【0022】

然る後図 3 (A) に示すように、コンデンサ素子 15 の陽極リード 16 を L 字状金具 17 に溶接し、金具 20 の下面を導電パターン電極 18 にハンダ 21 でハンダ付けし固定する。そしてコンデンサ素子 15 の陰極リード 17 を導電パターン 32 にハンダ 23 でもってハンダ付けする。この場合に導電パターン 31、32 はまだ繋がっているため、作業が用意である。

【0023】

然る後図 3 (B) に示すように、コンデンサ素子 15、金具 17 及び導電パターン 31、32 の全体を絶縁性樹脂 17 で被覆すると共に、これらを支持固定する。最後に図 3 (B) に示す点線で絶縁性樹脂 24 と導電パターン 31、32 を切断する。それにより図 3 (C) に示すごとく導電パターン 31、32 が完全に分離されると共に、切断された部分から下面が外部に露出された導電パターン電極 18、22 となり、図 1 の示すコンデンサ装置が完成するのである。

【0024】

図 2、図 3 はコンデンサ装置のみを特殊な混成集積回路技術を用いて組立てたが、図 4 は他の回路素子と一緒に混成集積回路を組立てる過程を示した側面図である。

【0025】

図 4 (A) は前述と同様にしてパターン電極 18、22 となる部分が分離溝 19 で分離された導電パターン 31、32 を形成する他、分離溝 37 で分離された導電パターン 38 を形成する。

【0026】

次に図 4 (B) のごとく、コンデンサ素子 15 の陽極リード 16 を L 字状金具 20 に溶接し、金具 20 の下部裏面を導電パターン電極 18 にハンダ 21 で固定

する。又コンデンサ素子 1 5 の陰極リード 1 7 を導電パターン 3 2 にハンダ 2 3 でもってハンダ付けする。

【 0 0 2 7 】

これと共に導電パターン 3 8 に形成されたパッド 3 8 A に回路素子として例えばパワートランジスタのベアチップ 3 9 を取り付け、ベアチップ 3 9 の電極と導電パターン 3 2 とを金属細線 4 0 をボンディングし接続する。

【 0 0 2 8 】

次に図 4 (C) のごとく、コンデンサ素子 1 5、金具 2 0、導電パターン 3 1、3 2、3 8、ベアチップ 3 9 及び金属細線 4 0 の全体を絶縁性樹脂 2 4 で被覆すると共に、これらを支持固定する。

【 0 0 2 9 】

然る後図 4 (C) に示す点線で絶縁性樹脂 2 4 と導電パターン 3 1、3 2、3 8 を切断する。それにより図 4 (D) に示すごとく導電パターン 3 1、3 2、3 9 が完全に分離され、切断された部分から下面が露出された導電パターン電極 1 8、2 2、3 8 となり、コンデンサ素子が組み込まれた混成集積回路が完成するのである。

【 0 0 3 0 】

前述において、回路素子としてパワートランジスタのベアチップを例に挙げたが、L S I のベアチップでもよく、また回路素子は 1 つでなく必要とする複数個の回路素子を同時に組み込んでもよい。

【 0 0 3 1 】

図 5 は本発明のコンデンサ装置の他の実施例を示す側面図で、図 1 においてはコンデンサ素子 1 5 の陽極リード 1 6 は離れていて直接に導電パターン 1 8 に固定することができないので、金具 2 0 を用いた。しかしコンデンサ素子 1 5 の陽極リード 1 6 を下方に曲げる。その曲げてメッキを施された陽極リード 1 6 の先端をハンダ 2 1 でハンダ付けすることにより、金具 2 0 を用いることなく導電パターン電極 1 8 に固定できる。

【 0 0 3 2 】

その他は前述と同様で、コンデンサ素子 1 5 の陰極リード 1 7 はそのまま前記

と異なる導電パターン電極 22 にハンダ 23 で半田付けし固定する。その後コンデンサ素子 15、陽極リード 16、陰極リード 17、金具 20 及び導電パターン電極 18、22 は下面を除いて絶縁性樹脂 24 で被覆し、一体的に支持し、チップタイプのコンデンサ装置を形成している。

【0033】

図 6 は同じく本発明のコンデンサ装置の他の実施例を示すもので、図 6 (A) 側面図、図 6 (B) は断面図である。前述と同じく金具 20 を用いることなくコンデンサ素子 15 の陽極リード 16 を直接に導電パターン 18 に固定することができるようにするものである。陽極リード 16 をスライドし誘電体の下部から突出させる。そして陽極リード 16 を直接導電パターン 18 に設けた凹部 18A に嵌着し位置決めし、さらにハンダ 21 でもってハンダ付けし固定する。

【0034】

図 7 も本発明のコンデンサ装置の他の実施例を示す側面図である。図 5 及び図 6 と同じく金具 20 を用いることなくコンデンサ素子 15 の陽極リード 16 を導電パターン 18 に固定することができるようにするものである。

【0035】

多く市場に出回っているコンデンサ素子は陽極リード 16 が中心から出ているのが殆んどである。ところが図 5 はコンデンサ素子 15 の陽極リード 16 を特殊加工しており、また図 6 ではコンデンサ素子 15 の陽極リード 16 の取出し位置を変えている。そのため汎用されているコンデンサ素子を使用できない欠点があった。

【0036】

そこで図 7 は一般に市場で用いられているコンデンサ素子 15 でもって金具 20 を用いずに陽極リード 16 を導電端子 18 に取付けられるようにしたものである。即ちコンデンサ素子 15 の陽極リード 16 が出ている面をメッキで平坦にする。その平坦にしたメッキ層 26 を導電パターン 18 に導電性接着剤等で固定する。その他は前述と同様である。

【0037】

図 5 ～図 7 の方法は図 4 に示すように、コンデンサ装置と共に、他の回路素子

のベアチップを同時に絶縁性樹脂で被覆し、支持する場合にも適用することが出来る。

【 0 0 3 8 】

【発明の効果】

本発明のコンデンサ装置は分離溝により電氣的に分離されてはいるが、下部が導電パターンで繋がっている一の導電パターン電極にコンデンサ素子の陽極リードを固着し、陰極リードを他の導電パターン電極に固着し、絶縁性樹脂でこれらコンデンサ素子及び導電パターン電極を被覆し、且つ導電パターン電極とコンデンサ素子とを一体に支持した後、前記導電パターンの接続部を切除すると共に、導電パターン電極の裏面を外部に露出させる。

【 0 0 3 9 】

従って従来のチップコンデンサのごとく電極となる陽極リード及び陰極リードに使用していた複雑な金具が不要となるので、小型化、薄型化、及び軽量化が達成できる。

【 0 0 4 0 】

またコンデンサ素子と共に混成集積回路を形成する他の回路素子のチップも同時に導電パターンに取付け、絶縁性樹脂で被覆しこれらを固着すれば、前記コンデンサ素子を組み込んだ混成集積回路を完成できる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明のコンデンサ装置で、（A）は側面図、（B）は平面図、図 1（C）は断面図である。

【図 2】

本発明のコンデンサ装置の製造課程を説明する側面図である。

【図 3】

本発明のコンデンサ装置の製造課程を説明する側面図である。

【図 4】

本発明のコンデンサ装置の他の製造課程を説明する側面図である。

【図 5】

本発明のコンデンサ装置の他の実施例を示す側面図である。

【図 6】

本発明の他の実施例を示すコンデンサで、図 6 (A) 側面図、図 6 (B) は断面図である。

【図 7】

本発明のコンデンサ装置の他の実施例を示す側面図である。

【図 8】

本発明及び従来のコンデンサ装置に用いたコンデンサ素子の断面図である。

【図 9】

従来のチップタンタルコンデンサの模型図である。

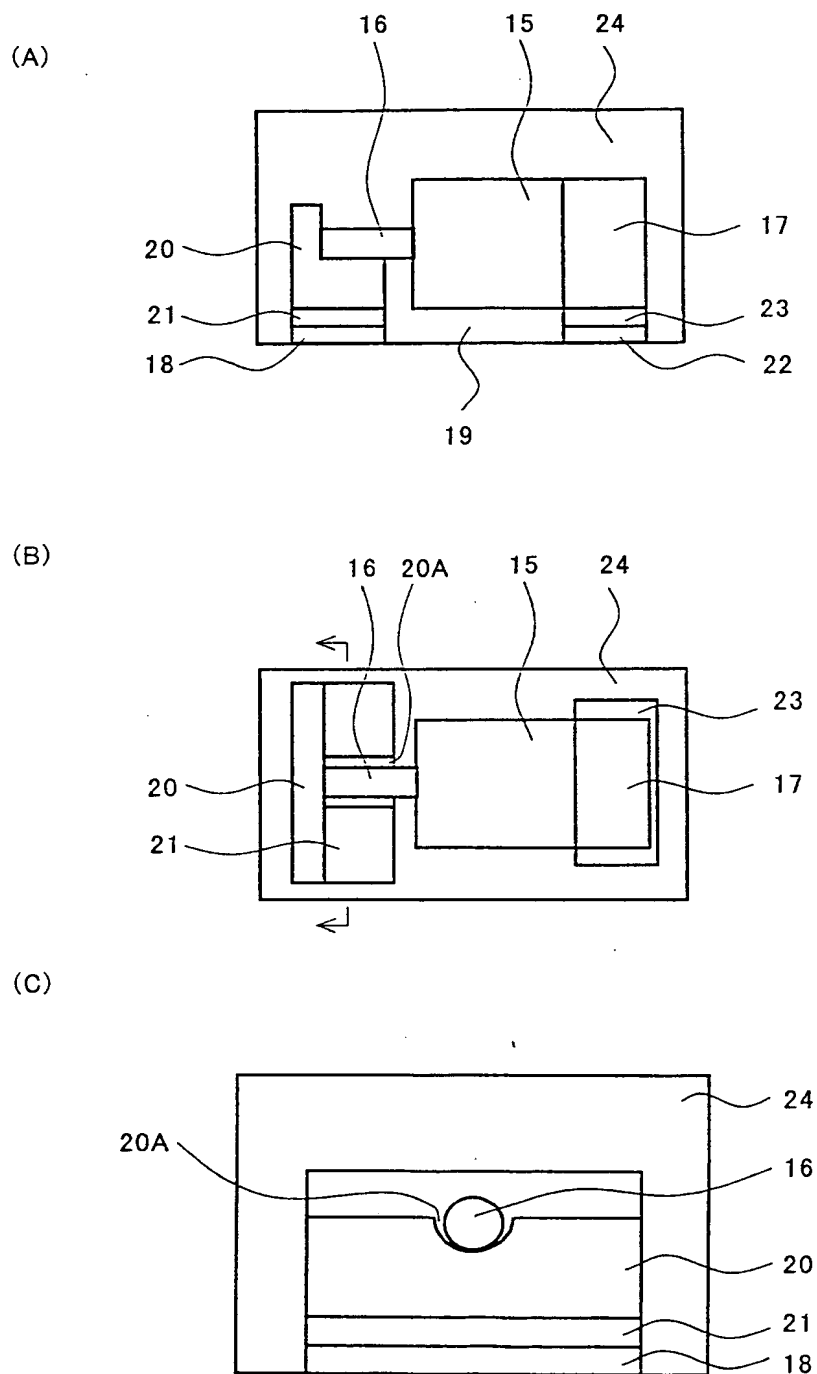
【符号の説明】

1 5	コンデンサ素子
1 6	陽極リード
1 7	陰極リード
1 8、2 2	導電パターン電極
2 0	金具
2 0 A	凹部
2 4	絶縁性樹脂
3 5	分離溝

【書類名】

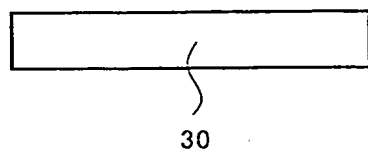
図面

【図 1】

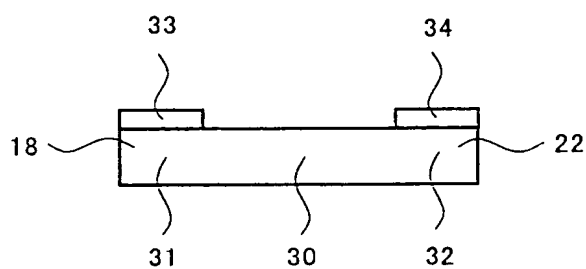


【図 2】

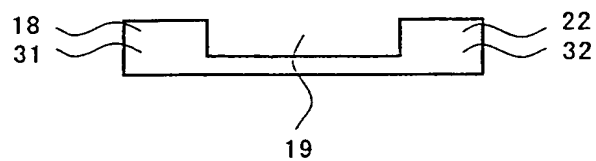
(A)



(B)

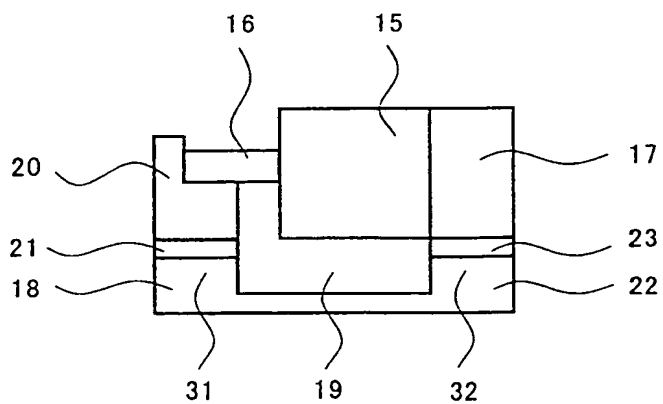


(C)

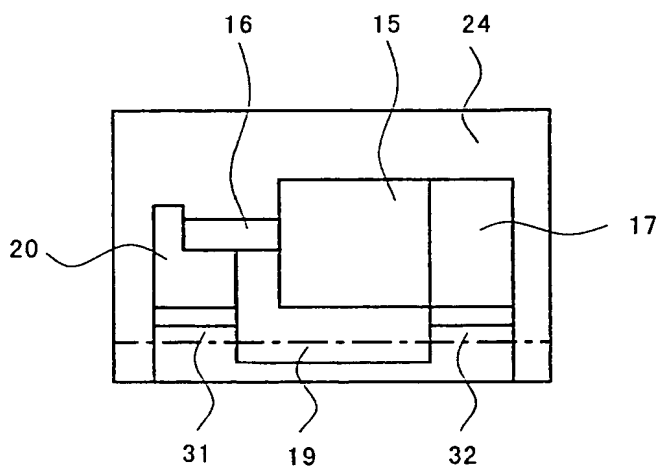


【図 3】

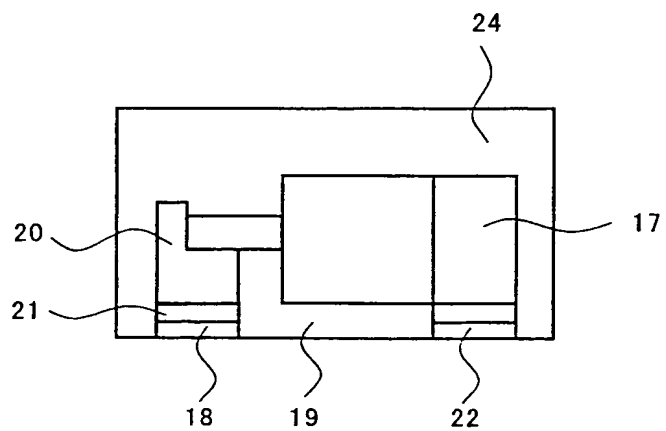
(A)



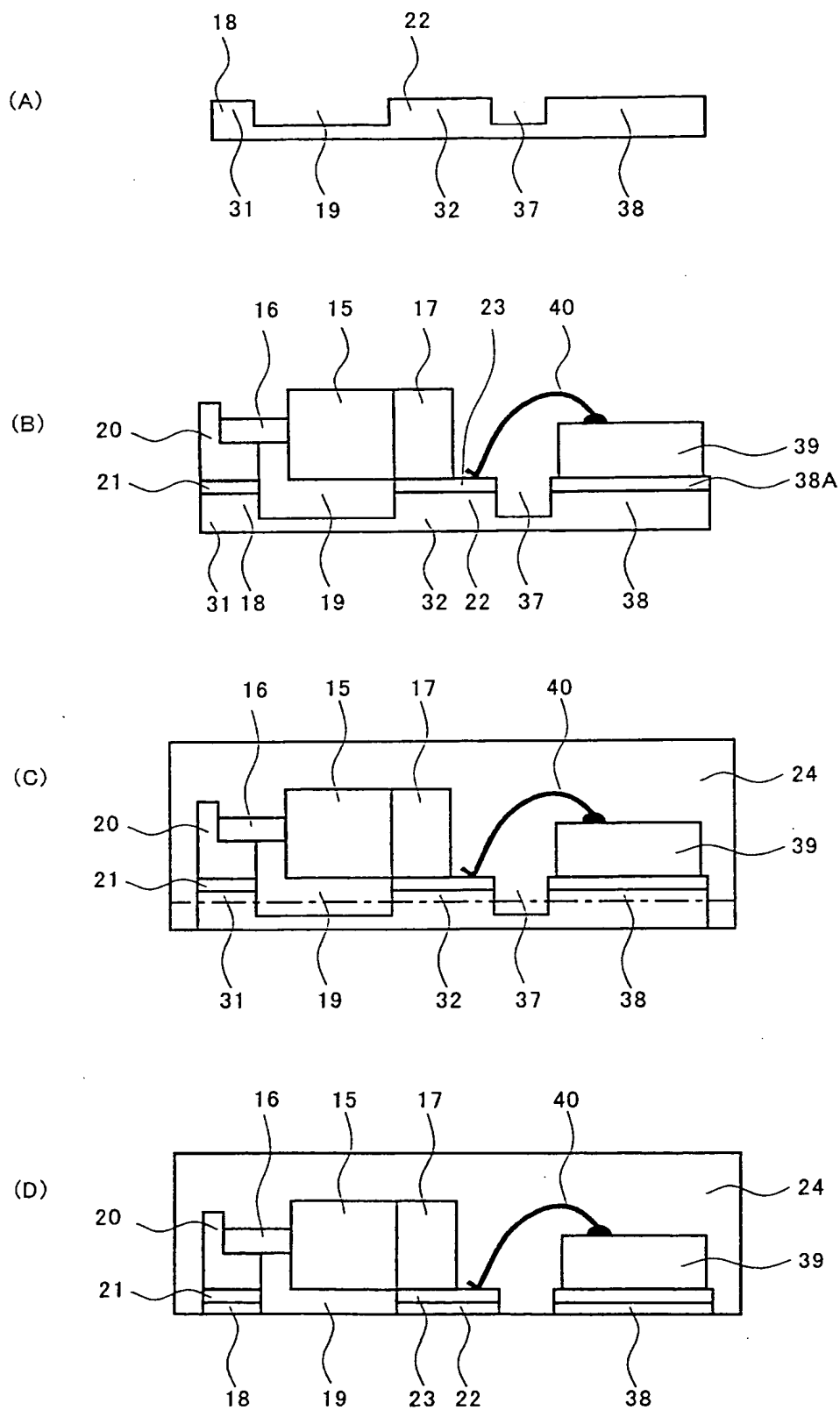
(B)



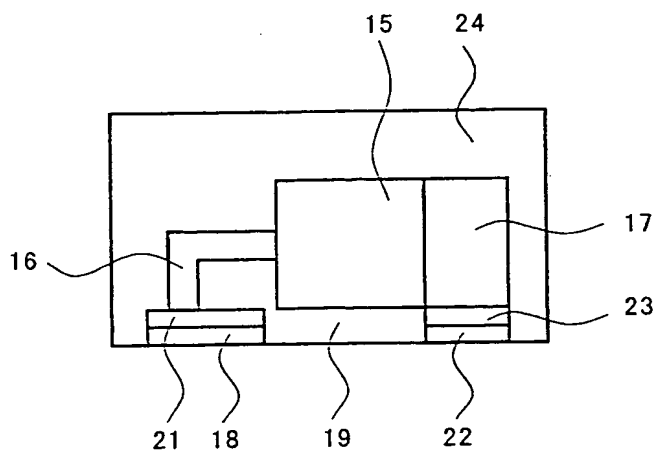
(C)



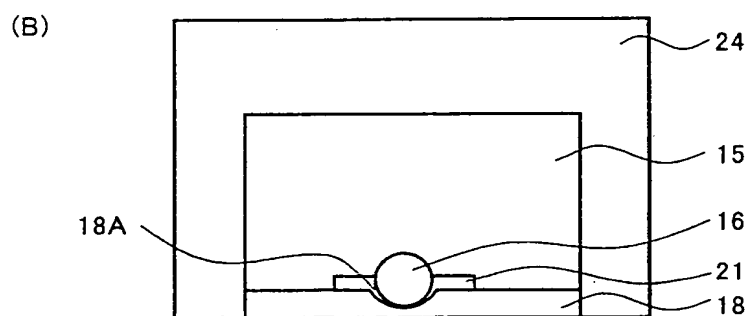
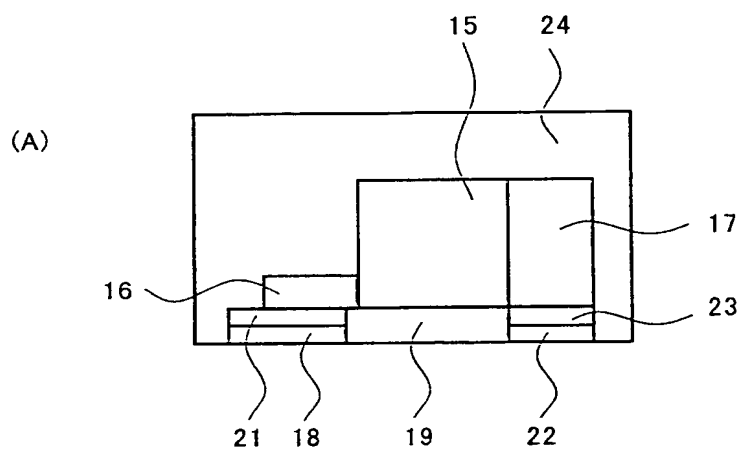
【図 4】



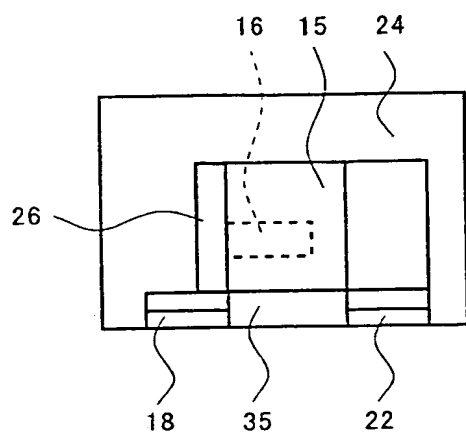
【図 5】



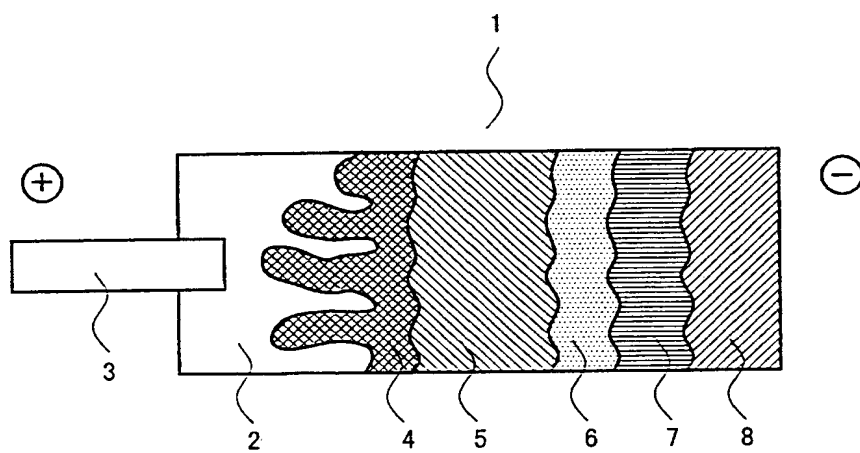
【図 6】



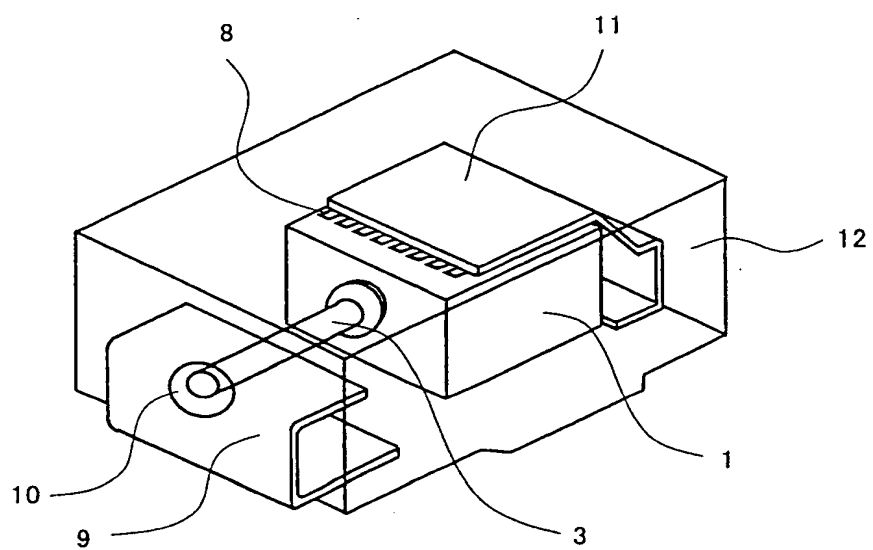
【図 7】



【図 8】



【図 9】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 軽量化、薄型化及び小型化を可能にしたコンデンサ装置を作る。

【解決手段】 コンデンサ装置を分離溝 1 9 により電氣的に分離された複数の導電パターン電極 1 8、2 2 と、前記一の導電パターン電極 1 8 に固着された陽極リード 1 6 及び他の導電パターン電極 2 2 に固着された陰極リード 1 7 を備えるコンデンサ素子 1 5 と、前記コンデンサ素子 1 5 及び導電パターンの電極 1 8、2 2 となる部分を除いて被覆し、且つ導電パターン電極とコンデンサ素子とを一体に支持する絶縁性樹脂 2 4 とで構成する。

【選択図】 図 1

特願 2 0 0 3 - 0 4 3 3 2 0

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[0 0 0 0 0 1 8 8 9]

1. 変更年月日

1 9 9 3 年 1 0 月 2 0 日

[変更理由]

住所変更

住 所

大阪府守口市京阪本通 2 丁目 5 番 5 号

氏 名

三洋電機株式会社